

2026年6月13日～14日、新緑の美しい道満グリーンパーク彩湖にて「第5回日本模型ヨット協会DF65選手権」が開催されました。

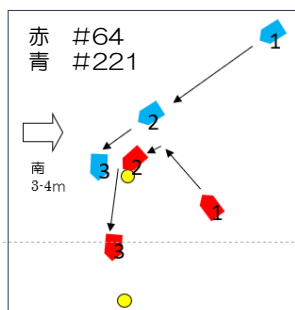
過去4回行われた同大会において、幸運にも2度の優勝を経験させていただいていた私ですが、強豪ひしめく18艇の頂点に立つことは決して容易ではありません。結果として3度目の栄冠を手にすることができましたが、そのプロセスはまさに「希望と落胆の連続」であり、非常にドラマチックな展開となりました。ここにその戦跡を振り返ります。

### 【第1日】痛恨のレース1ペナルティと、這い上がりのプロセス

今大会は実績に基づいてシーディングレースのメンバーの実力を均等に分ける「HMS（ヒート・マネジメント・システム）」が導入され、私はAヒートのスタートとなりました。（右図）

#### ■ レース1：痛恨のペナルティ

スタートから滑り出しは順調でした。優勝候補の一人である#221筒井選手と、第一上マーク手前までトップ争いを展開。しかし、ここで一つの判断ミスが大きく響きます。3位以内にフィニッシュしなくては、というプレッシャーのあまり、ポートアプローチからマーク手前でタックを試みた際、距離感を見誤りマークに接触。さらにリカバリーを急ぐあまり、続くヒッチマークにも接触するという痛恨の連続ペナルティを受けました。（右図）結果は5位。ルールに基づき、レース2はBヒート（下位グループ）からの出艇となり、厳しい船出となりました。



A	25	檜崎 広和
	31	吉田 昭雄
	39	八木 伴幸
	54	宮谷 紀行
	64	池松 靖之
	65	岩田 良文
	81	佐々木 弥市
	96	高橋 幸雄
	221	筒井 大和
B	26	地濱 義雄
	34	望月 廣治
	37	深江 裕治
	50	永井 茂樹
	59	平尾 南雄
	66	吉朝 洋文
	71	川崎 譲
	80	橋本 伸夫
	139	伊藤 孝明

#### ■ レース2～4：着実なりカバリーと修正

降格の逆境においても冷静を保ち、風を読み直すことに集中しました。

- ・レース2：Bヒートを慎重に勝ち上がり、Aヒートに復帰して4位を確保。
- ・レース3：戦術をさらにアジャストし、3位へ浮上。
- ・レース4：#50永井選手、#221筒井選手という実力者を抑え、1位フィニッシュ。

1日目を終えた時点での上位5名の暫定順位は以下の通り。（捨てレース1）

順位	セール番号	選手名	得点
1位	#50	永井選手	4点
2位	#221	筒井選手	7点
3位	#64	池松（私）	8点
4位	#31	吉田選手	12点
5位	#80	橋本選手	12点

首位の永井選手が非常に安定した走りを見せており、この時点での私の目標は「最低限の表彰台（3位以内）確保」としつつ、各レースで常にトップを狙い、僅かな逆転の望みを繋ぐことでした。

## 【第2日】緊迫の中にもたらされた結末

2日目の午前中は風速（北）が上がらず風待ち、各選手は午後の南風を期待しながら各自昼食をとる中、安定した南風が吹き始めました。

■ レース5～6：潮目の変化 盤石と思われた首位の永井選手が、スタートリコール（フライング）やDNSにより、9位、19位と大きくスコアを乱しました。これに対し、筒井選手が「1位・4位」、私が「4位・1位」と、手堅くまとめることで首位争いは一気に混沌としました。

### ■ 運命の最終レース8：三つどもえのカバー合戦

レース7を終えた段階で、2つの仮想捨てレース得点を差し引くと、なんと上位3名が完全に同点で並びという緊迫した状況を迎えました。優勝の行方は、この最終レースの結果に委ねられます。

私は「ライバルより前でフィニッシュする」というシンプルな目的のもと、緊張のスタートを迎えました。直前に風が左に振れたため、急遽「アウター有利」と判断して下側から鋭いスタートを切った……と思った瞬間、無情にもリコールの判定。

急ぎラインに戻りスタートを切り、執念で第一上マーク回航後に筒井選手、永井選手の後方にピタリとつけました。しかし、そこからの両者のディフェンス（カバー）は極めて緻密でした。前へ出ようとする私と、それを阻む両者。この「三つどもえのカバー合戦」に互いが没頭するうちに、3艇はフリート内の順位をズルズルと落としていく結果となります。

・最終レース8の着順（11艇中）は#221 筒井選手7位、#50 永井選手8位、#64 池松（私）9位でした。

筒井選手の後塵を拝したため、私は「優勝は逃した」と思い、静かに艇の片付けを始めていました。しかし、集計の計算が完了したとき、告げられたアナウンスは「優勝・池松」でした。

最終レースでは敗れたものの、これまでの「捨てレースの得点内容」と「1位の獲得回数」が影響し、RRSの得点計算の結果として私が優勝をいただくこととなったのです。

今回の勝因を振り返るならば、初戦の大きなミスやリコールに対して、一喜一憂することなく、目の前の風と艇の挙動に粘り強く向き合い続けたことにあると考えております。

## 【謝辞】運営いただいた皆様へ

最後になりますが、本大会を素晴らしいクオリティで支えてくださった運営スタッフの皆様に、深く御礼申し上げます。

・厳正かつ紳士的なジャッジでレースの品位を保ってくださった、日本セーリング連盟A級ジャッジの中嶋さん、落合さん

・的確な差配で大会を統括してくださった、東日本支部 支部長の吉田さん

・円滑な進行にご尽力いただいた、東日本支部の尾山さん

・そして、ボランティアとして貢献してくださった筒井光香さん

皆様の献身的なサポートのおかげで、私たちは純粋にセーリングの奥深さを楽しむことができました。この場を借りて心より感謝申し上げます。

第5回DF65選手権											
Scoring: MYA HMS											
Pos	Skipper	Sail	Score	1	2	3	4	5	6	7	8
1	池松 Y.Ikematsu	64	15	5	4	3	1	4	1	2	9
2	筒井 Y.Tsutsui	221	15	3	9	2	2	1	4	3	7
3	永井 S.Nagai	50	19	1	2	1	3	9	19	4	8
4	八木 T.Yagi	39	20	2	10	4	11	12	2	1	1
5	伊藤 T.Itou	139	22	2	5	8	8	3	5	5	2
6	望月 K.Mochizuki	34	23	4	12	6	4	2	3	9	4
7	吉田 A.Yoshida	31	32	1	1	10	10	14	6	8	6
8	橋本 N.Hashimoto	80	36	3	3	7	6	6	11	12	18
9	平尾 M.Hirao	59	37	8	7	11	5	8	10	6	3
10	吉朝 H.Yoshiasa	66	46	6	6	5	7	11	13	11	12
11	高橋 Y.Takahashi	96	47	7	11	12	9	5	9	7	10
12	橋崎 H.Narazaki	25	60	6	16	17	16	7	7	10	14
13	岩田 Y.Iwata	65	63	9	17	13	15	13	8	15	5
14	佐々木 Y.sasaki	81	68	4	8	16	14	19	15	16	11
15	宮谷 N.Miyatani	54	73	8	18	19	13	10	12	17	13
16	深江 Y.Fukae	37	75	5	14	14	18	15	14	13	16
17	地演 Y.Chihama	26	79	7	13	9	17	19	16	18	17
18	川崎 J.Kawasaki	71	80	9	15	15	12	16	17	14	15

